

厚生労働科学研究費補助金

(難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患等実用化事業
(免疫アレルギー疾患等実用化研究事業 免疫アレルギー疾患政策研究分野))

アトピー性皮膚炎の診療の均てん化のための
大規模疫学調査と診療ガイドライン・連携資材の作成

平成 27 年度～平成 29 年度

総合研究報告書

研究代表者 加藤 則人

平成 30 (2018)年 5 月

目 次

・ 総合研究報告 アトピー性皮膚炎の診療の均てん化のための大規模疫学調査と診療ガイドライン・連携資材の作成 -----	4
研究代表者 京都府立医科大学大学院医学研究科 皮膚科学 教授 加藤則人 (別添資料) 1, 2, 3	
・ 研究成果の刊行に関する一覧表 -----	21
・ 平成 29 年度構成員名簿 -----	38

総合研究報告

厚生労働科学研究費補助金
(難治性疾患等克服研究事業(難治性疾患等実用化事業
(免疫アレルギー疾患等実用化研究事業 免疫アレルギー疾患政策研究分野)))
総合研究報告書

アトピー性皮膚炎の診療の均てん化のための
大規模疫学調査と診療ガイドライン・連携資材の作成

研究代表者 加藤則人 京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学 教授

研究要旨

本研究の目的は、アトピー性皮膚炎の診療に携わるさまざまな地域のさまざまな診療科の医師が使い、すべての年齢層の患者の診療に必要な内容や患者や家族などの臨床の場での意思決定の参考に資するために必要な内容を含むアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療の均てん化に資することである。

本研究班では、アトピー性皮膚炎患者にとって重要なアウトカムを改善するために必要なクリニカルクエスチョンを 26 課題設定し、Pubmed, Cochrane Library, 医学中央雑誌などのデータベースを用いて文献を検索し、システマティックレビューを行った。システマティックレビューの結果から、エビデンスレベルの評価と統合で求められたエビデンス総体としてのエビデンスの強さ、益と害のバランスのほか、患者の価値観の多様性、経済学的な視点なども考慮して、推奨とその強さを決定し、クリニカルクエスチョンに対する推奨文を作成した。また、より詳細な情報を使用者に提供してアトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めるため、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について、上記のデータベースからの情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに解説文を作成した。

作成したアトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2018 の原案は、現在日本皮膚科学会、日本アレルギー学会の代議員によるパブリックコメントを終え、近日中に最終版を公表する予定である。

研究分担者

片山一朗 大阪大学大学院医学系研究科情報統合 医学皮膚科学教授	佐伯秀久 日本医科大学大学院医学研究科皮膚粘 膜病態学教授
秀 道広 広島大学大学院医歯薬保健学研究科皮 膚科学教授	池田政憲 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小 児急性疾患学講座教授
大矢幸弘 国立成育医療センター生体防御系内科 部アレルギー科医長	中原剛士 九州大学大学院医学研究院皮膚科体表 感知学講座准教授
下条直樹 千葉大学大学院医学研究院小児病態学 教授	二村昌樹 国立病院機構名古屋医療センター小児 科医長
藤澤隆夫 国立病院機構三重病院病院長	海老原全 慶應義塾大学医学部皮膚科学准教授

A. 研究目的

アトピー性皮膚炎は乳幼児から小児、青年に多く発症する慢性アレルギー性疾患で、科学的なエビデンスに基づく適切な治療によって良好な状態を維持することで寛解が期待されるが、一方で悪化すると生活の質の著しい低下や他のアレルギー疾患の発症につながる。アトピー性皮膚炎の診療を均てん化して国内のすべての地域でより多くの患者が良質な医療を享受できるようにするためには、皮膚科医、小児科医、アレルギー科医、総合診療医など、アトピー性皮膚炎の診療に携わるすべての医師や患者らが活用できる診療ガイドラインを作成することが望まれる。しかし、現在まで、このようなすべての年齢層の患者を対象に、さまざまな診療科の医師や患者を使用対象者として作成されたアトピー性皮膚炎診療ガイドラインは存在しない。そこで、本研究では、現在二つあるアトピー性皮膚炎診療ガイドラインを統一した新たな診療ガイドラインを作成することにより、アトピー性皮膚炎の診療の均てん化に資することを目的とする。

B. 研究方法

本研究班（研究代表者、研究分担者、研究協力者）でガイドライン作成委員会を結成する。このメンバーは、皮膚科医を対象とした日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの作成および小児科医やアレルギー科医を対象とした日本アレルギー学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン、食物アレルギー診療ガイドライン、小児喘息診療ガイドラインなど、多数のアレルギー疾患の診療ガイドライン作成に携わってきた経験を有する。また、臨床研究論文のシステマティックレビューに精通している。

今年度は、昨年度に作成した SCOPE をも

とに、その中の重要臨床課題からアトピー性皮膚炎患者にとって重要なアウトカムを改善するために必要なクリニカルクエスチョンを26 課題設定し、Pubmed, Cochrane Library, 医学中央雑誌などのデータベースを用いて文献を検索し、システマティックレビューを行う。システマティックレビューの結果から、エビデンスレベルの評価と統合で求められたエビデンス総体としてのエビデンスの強さ、益と害のバランスのほか、患者の価値観の多様性、経済学的な視点なども考慮して推奨とその強さを決定したクリニカルクエスチョンに対する推奨文を作成する。推奨度を含め推奨文の内容については、ガイドライン作成委員会で全会一致するまで慎重に議論する。また、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項に関する解説文を作成する。

また、アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項について解説した文章を掲載することによって、より詳細な情報を使用者に提供し、アトピー性皮膚炎の診療に関する理解を深めることを目的とする。

（倫理面への配慮）

本研究では、既に報告された臨床研究論文のシステマティックレビューや、文献から得た情報による解説文による診療ガイドラインの作成のみを行う。

C. 研究成果

1) クリニカルクエスチョンに対する推奨文の作成

26 課題（別添資料1）についてキーワードを設定して行ったシステマティックレビューの結果から、エビデンスレベルの評価と統合で求められたエビデンス総体としてのエビデンスの強さ、益と害のバランスのほか、患者の価値観の多様性、経済学的な視点なども考慮して推奨とその強さ（別添資料2）を決定

し、クリニカルクエスションに対する推奨文を作成した。

2) アトピー性皮膚炎の診療に重要な事項に関する解説文の作成

アトピー性皮膚炎の定義や病態、診断、検査、治療など（別添資料3）について、データベースを用いて検索した情報や国内外の書籍、総説などの情報をもとに網羅的に解説した文章を作成した。

これらの2つのパートをアトピー性皮膚炎診療ガイドライン2018の原案として日本皮膚科学会、日本アレルギー学会の代議員によるパブリックコメントを終え、近日中に最終版を「日本皮膚科学会雑誌」、「アレルギー」、およびWeb上に、また英文版を「The Journal of Dermatology」、「Allergology International」に公表する予定である。

D. 考察

アトピー性皮膚炎は乳幼児から小児、青年に多く発症する慢性アレルギー性疾患で、科学的なエビデンスに基づく適切な治療によって良好な状態を維持することで寛解が期待される。一方で、悪化すると生活の質の著しい低下や他のアレルギー疾患の発症につながる。

本研究で作成を進めているアトピー性皮膚炎の診療ガイドラインができれば、さまざまな地域のさまざまな診療科の医師が、すべての年齢層の患者の診療において使用できる。また、患者や家族などが臨床の場での意思決定の際の参考にすることもできる。

また、重要な臨床課題から派生するクリニカルクエスションに対して、システムティックレビューをもとにしたガイドラインを作成することは、従来の教科書的な記載が多かった診療ガイドラインから、Mindsの提唱する診療ガイドラインに近づくものができるかと考

えている。さらに、アトピー性皮膚炎の定義や病態、診断、検査、治療など診療に有用な情報を網羅的に解説した文章を作成したことも、アトピー性皮膚炎の診療において有用な情報を提供すると思われる。

E. 結論

アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2018の原案を作成した。原案は、現在日本皮膚科学会、日本アレルギー学会の代議員によるパブリックコメントを終え、近日中に最終版を「日本皮膚科学会雑誌」、「アレルギー」、およびWeb上に、また英文版を「The Journal of Dermatology」、「Allergology International」に公表する予定である。

F. 研究発表

<論文発表>

英語論文

1. Furue M, Hagihara A, Takeuchi S, Murota H, Sugaya M, Masuda K, Hiragun T, Kaneko S, Saeki H, Shintani Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Kitami Y, Tanioka M, Imafuku S, Abe M, Inomata N, Morisky DE, Katoh N. Poor adherence to oral and topical medication in 3096 dermatological patients as assessed by Morisky Medication Adherence Scale-8. Br J Dermatol 2015; 172: 272-5.
2. Kido-Nakahara M, Katoh N, Saeki H, Mizutani H, Hagihara A, Takeuchi S, Nakahara T, Masuda K, Tamagawa-Mineoka R, Nakagawa H, Omoto Y, Matsubara K, Furue M. Comparative cut-off value setting of pruritus intensity in visual analogue scale and verbal rating scale. Acta Derm Venereol 2015; 95: 345-346.
3. Nakamura N, Tamagawa-Mineoka R, Ueta M, Kinoshita S, Katoh N. Toll-like receptor-3 in

- murine contact hypersensitivity reaction. *J Invest Dermatol* 2015; 135: 411-417.
4. Saeki H, Imafuku S, Abe M, Shintani Y, Onozuka D, Hagihara A, Katoh N, Murota H, Takeuchi S, Sugaya M, Tanioka M, Kaneko S, Masuda K, Inomata N, Hiragun T, Kitami Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Morisky DE, Furue M. Poor adherence to medication as assessed by the Morisky Medication Adherence Scale-8 and low satisfaction with treatment in 237 psoriasis patients. *J Dermatol* 2015; 42: 367-372.
 5. Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Ueda S, Nakamura N, Hotta E, Hattori J, Minamiyama R, Yamazaki A, Katoh N. Contact sensitivity in patients with recalcitrant atopic dermatitis. *J Dermatol* 2015; 42: 720-722.
 6. Kaneko S, Masuda K, Hiragun T, Inomata N, Furue M, Onozuka D, Takeuchi S, Murota H, Sugaya M, Saeki H, Shintani Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Kitami Y, Tanioka M, Imafuku S, Abe M, Hagihara A, Morisky DE, Katoh N. Transient improvement of urticaria induces poor adherence as assessed by Morisky Medication Adherence Scale-8. *J Dermatol* 42: 1078-82, 2015.
 7. Nakai N, Katoh N. Severe adult atopic dermatitis successfully treated with concurrent Unseiin and standard treatment. *Traditional & Kampo Medicine* 2; 23-26, 2015.
 8. Murota H, Takeuchi S, Sugaya M, Tanioka M, Onozuka D, Hagihara A, Saeki H, Imafuku S, Abe M, Shintani Y, Kaneko S, Masuda K, Hiragun T, Inomata N, Kitami Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Morisky DE, Furue M, Katoh N. Characterization of socioeconomic status of Japanese patients with atopic dermatitis showing poor medical adherence and reasons for drug discontinuation. *J Dermatol Sci* 79: 279-87, 2015.
 9. Mihara K, Nomiyama T, Masuda K, Shindo H, Yasumi M, Sawada T, Nagasaki K, Katoh N. Dermoscopic insight into skin microcirculation-burn depth assessment. *Burn* 41; 1708-1716, 2015.
 10. Furue M, Tsuji G, Mitoma C, Nakahara T, Chiba T, Morino-Koga S, Uchi H. Gene regulation of filaggrin and other skin barrier proteins via aryl hydrocarbon receptor. *J Dermatol Sci* 80; 83-88, 2015.
 11. Shiratori-Hayashi M, Koga K, Tozaki-Saitoh H, Kohro Y, Toyonaga H, Yamaguchi C, Hasegawa A, Nakahara T, Hachisuka J, Akira S, Okano H, Furue M, Inoue K, Tsuda M. STAT3-dependent reactive astrogliosis in the spinal dorsal horn underlies chronic itch. *Nat Med.* 21; 927-931, 2015.
 12. Nakahara T, Mitoma C, Hashimoto-Hachiya A, Takahara M, Tsuji G, Uchi H, Yan X, Hachisuka J, Chiba T, Esaki H, Kido-Nakahara M, Furue M: Antioxidant opuntia ficus-indica extract activates AHR-NRF2 signaling and upregulates filaggrin and loricrin expression in Human Keratinocytes. *J Med Food* 18; 1143-1149, 2015.
 13. Aktar MK, Kido-Nakahara M, Furue M, Nakahara T. Mutual upregulation of endothelin-1 and IL-25 in atopic dermatitis. *Allergy* 70; 846-854, 2015.
 14. Takei K, Mitoma C, Hashimoto-Hachiya A, Uchi H, Takahara M, Tsuji G, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Furue M: Antioxidant soybean tar Glyteer rescues T-helper-mediated downregulation of filaggrin expression via aryl hydrocarbon receptor. *J Dermatol* 42; 171-180, 2015.

15. Tamura M, Kawasaki H, Masunaga T, Ebihara T. Equivalence evaluation of moisturizers in atopic dermatitis patients. *J Cosmet Sci* 66: 295-303, 2015.
16. Saeki H, Nakahara T, Tanaka A, Kabashima K, Sugaya M, Murota H, Ebihara T, Kataoka Y, Aihara M, Etoh T, Katoh N. Clinical practice guidelines for the management of atopic dermatitis 2016. *J Dermatol* 43; 1117-1145, 2016.
17. Mizutani H, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Katoh N. Serum IL-21 levels are elevated in atopic dermatitis patients with acute skin lesions. *Allergol Int* 66; 440-444, 2016.
18. Mizutani H, Tamagawa-Mineoka R, Minami Y, Yagita K, Katoh N. Constant light exposure impairs immune tolerance development in mice. *J Dermatol Sci* 86; 63-70, 2016.
19. Terao M, Itoi S, Matsumura S, Yang L, Murota H, Katayama I. Local glucocorticoid activation by 11 β -hydroxysteroid dehydrogenase 1 in keratinocytes: The role in hapten-induced dermatitis. *Am J Pathol* 2016; 186: 1499-1510.
20. Itoi-Ochi S, Terao M, Murota H, Katayama I. Local corticosterone activation by 11 - hydroxysteroid dehydrogenase 1 in keratinocytes: the role in narrow-band UVB-induced dermatitis. *Dermatoendocrinol* 2016; 8: e1119958.
21. Terao M, Katayama I. Local cortisol/corticosterone activation in skin physiology and pathology. *J Dermatol Sci* 2016; 84: 11-6.
22. Takahashi A, Tani S, Murota H, Katayama I. Histamine modulates sweating and affects clinical manifestations of atopic dermatitis. *Curr Probl Dermatol* 2016; 51: 50-6.
23. Chiba T, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, Yokomizo T, Uchi H, Furue M. The leukotriene B4 receptor BLT2 protects barrier function via actin polymerization with phosphorylation of myosin phosphatase target subunit 1 in human keratinocytes. *Exp Dermatol* 25; 532-536, 2016.
24. Katayama I. Abberant sudomotor functions in Sjögren's syndrome: comparable study with atopic dermatitis on dry skin manifestation. *Curr Probl Dermatol* 2016; 51: 62-74.
25. Murota H, Katayama I. Evolving understanding on the aetiology of thermally provoked itch. *Eur J Pain* 2016; 20: 47-50.
26. Sasaki M, Yoshida K, Adachi Y, Furukawa M, Itazawa T, Odajima H, Saito H, Hide M, Akasawa A. Environmental factors associated with childhood eczema: Findings from a national web-based survey. *Allergol Int* 2016; 65: 420-4.
27. Hiragun T, Hide M. Sweat allergy. *Current Problems in Dermatol*, 2016; 51: 101-8.
28. Natsume O, Kabashima S, Nakazato J, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Kondo M, Saito M, Kishino A, Takimoto T, Inoue E, Tang J, Kido H, Wong GW, Matsumoto K, Saito H, Ohya Y; PETIT Study Team. Two-step egg introduction for prevention of egg allergy in high-risk infants with eczema (PETIT): a randomised, double-blind, placebo-controlled trial. *Lancet* 2016 pii: S0140-6736(16)31418-0.
29. Fukuie T, Hirakawa S, Narita M, Nomura I, Matsumoto K, Tokura Y, Ohya Y. Potential preventive effects of proactive therapy on sensitization in moderate to severe childhood atopic dermatitis: A randomized, investigator-blinded, controlled study. *J Dermatol* 2016; 43: 1283-1292.
30. Horimukai K, Morita K, Narita M, Kondo M,

- Kabashima S, Inoue E, Sasaki T, Niizeki H, Saito H, Matsumoto K, Ohya Y. Transepidermal water loss measurement during infancy can predict the subsequent development of atopic dermatitis regardless of filaggrin mutations. *Allergol Int* 2016; 65: 103-8.
31. Arima T, Campos-Alberto E, Funakoshi H, Inoue Y, Tomiita M, Kohno Y, Shimojo N. Immediate systemic allergic reaction in an infant to fish allergen ingested through breast milk. *Asia Pac Allergy* 2016; 6: 257-259.
 32. Sato K, Sato Y, Nagao M, Shimojo N, Yoshihara S, Adachi Y, Kameda M, Terada A, Fujisawa T. Development and validation of asthma questionnaire for assessing and achieving best control in preschool-age children. *Pediatr Allergy Immunol* 2016; 27: 307-12.
 33. Katsunuma T, Adachi Y, Miura K, Teramoto T, Fujisawa T, Ohya Y, Futamura M, Imai T, Kondo N; Working Group for the Disaster, Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology. Care of children with allergic diseases following major disasters. *Pediatr Allergy Immunol* 2016; 27: 425.
 34. Shoda T, Futamura M, Yang L, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Saito H, Ohya Y. Timing of eczema onset and risk of food allergy at 3 years of age: A hospital-based prospective birth cohort study. *J Dermatol Sci* 2016; 84: 144-8.
 35. Yamamoto-Hanada K, Honda T, Kurihara J, Ishitsuka K, Futamura M, Ohya Y. Food allergy education program at an elementary school: A pilot study. *Ann Allergy Asthma Immunol* 2016; 117: 318-9.
 36. Yamaguchi C, Futamura M, Chamlin SL, Ohya Y, Asano M. Development of a Japanese Culturally Modified Version of the Childhood Atopic Dermatitis Impact Scale (JCMV-CADIS). *Allergol Int* 2016; 65: 312-9.
 37. Futamura M, Leshem YA, Thomas KS, Nankervis H, Williams HC, Simpson EL. A systematic review of Investigator Global Assessment (IGA) in atopic dermatitis (AD) trials: Many options, no standards. *J Am Acad Dermatol* 2016; 74: 288-94.
 38. Mizutani H, Tamagawa-Mineoka R, Minami Y, Yagita K, Katoh N. Constant light exposure impairs immune tolerance development in mice. *J Dermatol Sci* 86; 63-70, 2017.
 39. Kido-Nakahara M, Furue M, Ulzii D, Nakahara T. Itch in atopic dermatitis. *Immunol Allergy Clin North Am.* 2017; 37: 113-22.
 40. Itoh E, Nakahara T, Murata M, Ito T, Onozuka D, Furumura M, Hagihara A, Furue M. Chronic spontaneous urticaria: Implications of subcutaneous inflammatory cell infiltration in an intractable clinical course. *J Allergy Clin Immunol* 2017; 139: 363-366.e3.
 41. Akashi M, Yasudo H, Narita M, Nomura I, Akasawa A, Ebisawa M, Takahashi T, Ohya Y. Randomized controlled trial of oral immunotherapy for egg allergy in Japanese patients. *Pediatr Int* 2017; 59: 534-539.
 42. Mizuno Y, Ohya Y, Nagao M, DunnGalvin A, Fujisawa T. Validation and reliability of the Japanese version of the Food Allergy Quality of Life Questionnaire-Parent Form. *Allergol Int* 2017; 66: 290-295.
 43. Blauvelt A, Papp KA, Sofen H, Augustin M, Yosipovitch G, Katoh N, Mrowietz U, Ohtsuki M, Poulin Y, Shrom D, Burge R, See K, Mallbris L, Gordon KB. Continuous dosing versus interrupted therapy with ixekizumab: an

- integrated analysis of two phase 3 trials in psoriasis. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 2017; 31: 1004-1013.
44. Cho Z, Konishi E, Kanemaru M, Isohisa T, Arita T, Kawai M, Tsutsumi M, Mizutani H, Takenaka H, Ozawa T, Tsuruta D, Katoh N, Asai J. Podoplanin expression in peritumoral keratinocytes predicts aggressive behavior in extramammary Paget's disease. *J Dermatol Sci* 2017; 87: 29-35.
 45. Tamagawa-Mineoka R, Yasuoka N, Ueda S, Katoh N. Influence of topical steroids on intraocular pressure in patients with atopic dermatitis. *Allergol Int*, pii: S1323-8930(18)30004-2.
 46. Ueta M, Hamuro J, Nishigaki H, Nakamura N, Shinomiya K, Mizushima K, Hitomi Y, Tamagawa-Mineoka R, Yokoi N, Naito Y, Tokunaga K, Katoh N, Sotozono C, Kinoshita S. Mucocutaneous inflammation in the Ikaros Family Zinc Finger 1-keratin 5-specific transgenic mice. *Allergy* 2018; 73: 395-404.
 47. Nakamura N, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Katoh N. Immediate-type allergic reactions to local anesthetics. *Allergol Int* 2018; 67: 160-161 .
 48. Nakahara T, Kido-Nakahara M, Ohno F, Ulzii D, Chiba T, Tsuji G, Furue M. The pruritogenic mediator endothelin-1 shifts the dendritic cell-T-cell response toward Th17/Th1 polarization. *Allergy*. 2018 73(2):511-515.
 49. Tsuji G, Hashimoto-Hachiya A, Kiyomatsu-Oda M, Takemura M, Ohno F, Ito T, Morino-Koga S, Mitoma C, Nakahara T, Uchi H, Furue M. Aryl hydrocarbon receptor activation restores filaggrin expression via OVOL1 in atopic dermatitis. *Cell Death Dis*. 2017 Jul 13;8(7):e2931. doi: 10.1038/cddis.2017.322.
 50. Yasukochi Y, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kuroki R, Koga T, Mashino T, Kurihara Y, Furue M. Clinical bandings of Patient-Oriented Eczema Measure scores among Japanese patients with atopic eczema. *Br J Dermatol*. 2017 Nov;177(5):e211-e212. doi: 10.1111/bjd.15599.
 51. Uryu M, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Chiba T, Furue M. Epidermal p16INK4a expression is more frequently and intensely upregulated in lichen planus than in eczema, psoriasis, drug eruption and graft-versus-host disease. *J Dermatol*. 2017 Mar;44(3):343-344. doi: 10.1111/1346-8138.13581.
 52. Itoh E, Nakahara T, Murata M, Ito T, Onozuka D, Furumura M, Hagihara A, Furue M. Chronic spontaneous urticaria: Implications of subcutaneous inflammatory cell infiltration in an intractable clinical course. *J Allergy Clin Immunol*. 2017 139(1):363-366.
 53. Nakahara T, Morimoto H, Murakami N, Furue M. Mechanistic insights on topical tacrolimus for the treatment of atopic dermatitis. *Pediatr Allergy Immunol*. 2017 Dec 4. doi: 10.1111/pai.12842.doi: 10.1016/j.alit.2018.01.004.
 54. Furue M, Kadono T, Tsuji G, Nakahara T. Topical E6005/RVT-501, a novel phosphodiesterase 4 inhibitor, for the treatment of atopic dermatitis. *Expert Opin Investig Drugs*. 2017 Dec;26(12):1403-1408. doi: 10.1080/13543784.2017.1397626.
 55. Furue M, Yamamura K, Kido-Nakahara M,

- Nakahara T, Fukui Y. Emerging role of interleukin-31 and interleukin-31 receptor in pruritus in atopic dermatitis. *Allergy*. 2017 Jul 3. doi: 10.1111/all.13239
56. Furue M, Chiba T, Tsuji G, Ulzii D, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kadono T. Atopic dermatitis: immune deviation, barrier dysfunction, IgE autoreactivity and new therapies. *Allergol Int*. 2017 Jul;66(3):398-403. doi: 10.1016/j.alit.2016.12.002.
57. Nakahara T. Clinical questions: Lifestyle of Japan and atopic dermatitis Evolution of Atopic Dermatitis in the 21st Century, Springer Nature, P. 369-381, 2017.
58. Murota H, Katayama I, Exacerbating factors of itch in atopic dermatitis, *Allergol Int*, 66, 8-13, 2017.
59. Hiragun T, Hiragun M, Ishii K, Kan T, Hide M. Sweat allergy: extrinsic or intrinsic? *J Dermatol Sci* 87: 3-9, 2017.
60. Iwamoto K, Moriwaki M, Niitsu Y, Saino M, Takahagi S, Hisatsune J, Sugai M, Hide M. *Staphylococcus aureus* from atopic dermatitis skin alters cytokine production triggered by monocyte-derived Langerhans cell. *J Dermatol Sci* 88: 271-279, 2017.
61. Okamoto M, Takahagi S, Tanaka A, Ogawa A, Nobuki H, Hide M. A case of Kaposi's varicelliform eruption progressing to herpes simplex virus hepatitis in an immunocompetent patient. *Clin Exp Dermatol* doi: 10.1111/ced.13405.
62. Stalder JF, Futamura M, Barbarot S. et al. Topical corticosteroid phobia in atopic dermatitis: International feasibility study of the TOPICOP score. *Allergy* 72; 1713-1719, 2017.
63. Kikkawa T, Yorifuji T, Fujii Y, Yashiro M, Okada A, Ikeda M, Doi H, Tsukahara H. Birth order and pediatric allergic disease: a nationwide longitudinal survey. *Clin Exp Allergy* 48; 577-585, 2018.
64. Nagao M, Ikeda M, Fukuda N, Habukawa C, Kitamura T, Katsunuma T, Fujisawa T; LePAT. Early control treatment with montelukast in preschool children with asthma: A randomized controlled trial. *Allergol Int* 67; 72-78, 2018.
65. Araki T, Ikeda M, Kitada K, Kodera A, Fujiwara M, Muraoka M, Abe Y, Tsukahara H. Analysis of factors associated with development of Bacille Calmette-Guerin inoculation site change in Kawasaki disease. *J Int Med Res* 46; 1640-1648, 2018.
66. Nagao M, Inagaki S, Kawano T, Azuma Y, Nomura N, Noguchi Y, Ohta S, Kawaguchi A, Odajima H, Ohya Y, Fujisawa T, Izuhara K. SCCA2 is a reliable biomarker for evaluating pediatric atopic dermatitis. *J Allergy Clin Immunol* 2018; 141: 1934-1936 e1911.
- <日本語論文>
1. 加藤則人. 皮膚症状からの評価. - アレルギー疾患の有効性評価 - . アレルギー・免疫 22; 88-93, 2015.
 2. 加藤則人. 皮膚疾患に対する内服薬のアドヒアランスを高めるためには. *Dermatology Today* 20; 12-17, 2015.
 3. 加藤則人. 小児アトピー性皮膚炎の治療. *MB Derma* 236; 8-13, 2015.
 4. 加藤則人. アトピー性皮膚炎と autoantigen. *臨床免疫・アレルギー科* 64; 250-254, 2015.
 5. 加藤則人. 総合アレルギー専門医に求められる皮膚科領域. *喘息* 28, 61-65, 2015.
 6. 加藤則人. 皮膚アレルギーのトピックス. *医学と薬学* 72; 1697-1701, 2015.
 7. 加藤則人. 京都府下の一地区におけるアトピー性皮膚炎の疫学調査. *臨床免疫・ア*

- レルギー 64; 546-549, 2015.
8. 秀道広. アトピー性皮膚炎・蕁麻疹の疫学 アレルギーの臨床 35; 1035-1038, 2015.
 9. 佐伯秀久. アレルギー疾患ガイドラインダイジェスト:アトピー性皮膚炎.アレルギーの臨床 35; 844-848, 2015.
 10. 佐伯秀久. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2015—薬物療法のポイント— .アレルギー 64; 1306-1312, 2015.
 11. 佐伯秀久. アトピー性皮膚炎のガイドライン概説 . 医学のあゆみ 256; 43-48, 2016.
 12. 中原 剛士, 中原 真希子. かゆみは何のためにあるのか : かゆみと疾患 アトピー性皮膚炎. 臨牀と研究 92; 420-426, 2015.
 13. 中原剛士、竹内聡、古江増隆. 石垣島におけるアトピー性皮膚炎のコホート研究 臨床免疫・アレルギー科 64; 540-545, 2015.
 14. 鈴木加余子、松永佳世子、矢上晶子、足立厚子、池澤優子、伊藤明子、乾重樹、上津直子、海老原全、大磯直毅、大迫順子、加藤敦子、河合敬一、関東裕美、佐々木和実、杉浦伸一、杉浦真理子、高山かおる、中田土起丈、西岡和恵、堀川達弥、宮沢仁、吉井恵子、鷺崎久美子. ジャパニーズスタンダードアレルゲン (2008)の陽性率 2010年～2012年の推移. J Environ Dermatol Cutan Allergol 9: 101- 109, 2015
 15. 長尾みづほ. 【見てわかる小児の皮膚疾患】新生児期・乳児期の皮膚疾患 乳児アトピー性皮膚炎. 小児科診療 78:1458-1462, 2015.
 16. 長尾みづほ. 【小児を診る!皮膚科医の心得】(第II部)(1章)知っておきたい療法 食物アレルギーに対する経口免疫療法. 皮膚科の臨床 57: 950-957, 2015.
 17. 加藤則人、佐伯秀久、中原剛士、田中暁生、椋島健治、菅谷誠、室田浩之、海老原全、片岡葉子、相原道子、江藤隆史. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016年版. 日皮会誌 126; 121-155, 2016.
 18. 加藤則人. アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス. 医学のあゆみ 256; 75-79, 2016.
 19. 加藤則人. アトピー性皮膚炎. BIO Clinica 31; 23-27, 2016.
 20. 加藤則人. ステロイド外用薬. レジデント 9; 14-20, 2016.
 21. 加藤則人. アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス. 医学のあゆみ 256; 75-79, 2016.
 22. 加藤則人. アドヒアランスから考える外用薬の現状. - 皮膚領域の外用療法を見直す - . Progress in Medicine 34; 2095-8: 2016.
 23. 加藤則人. 皮膚アレルギーに関する最近のトピックス. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 2016; 10; 1-5.
 24. 加藤則人. アトピー性皮膚炎. 小児内科 2016; 48: 459-63.
 25. 加藤則人. ステロイド外用薬. レジデント 9; 14-20, 2016.
 26. 加藤則人. アトピー性皮膚炎の新しい治療について. 日臨皮誌 2016; 33: 601-3.
 27. 佐伯秀久:アトピー性皮膚炎のガイドライン概説 . 医学のあゆみ 2016; 256: 43-8.
 28. 二村昌樹、山本貴和子、齋藤麻耶子、Batchelor J、中原真希子、中原剛士、古江増隆、大矢幸弘. ステロイド外用薬への不安評価尺度 TOPICOP 日本語版の作成と実行可能性の検討. アレルギー 2016; 65: 66-72.
 29. 中原剛士、森本宏、村上尚史、古江増隆. アトピー性皮膚炎治療におけるタクロリ

- ムス軟膏の新たな役割 - 最近の話題 - .
西日皮膚 2016; 78: 468-74.
30. 中原剛士. アトピー性皮膚炎における治療アドヒアランス. アレルギーの臨床 2016; 36: 22-6.
 31. 中原剛士. 【臨床検査の最新情報】免疫学検査 アレルギー検査. 臨床と研究 2016; 93: 1088-92.
 32. 中原真希子, 中原剛士. 【最新のアレルギー治療のコツ】 アレルギー疾患の治療 アトピー性皮膚炎 臨床と研究 2016; 93: 163-9.
 33. 海老原全. アトピー性皮膚炎の全身療法. 医学のあゆみ 2016; 256: 96-100.
 34. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. 日内会誌 106; 586-590, 2017.
 35. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 の解説. 医学と薬学 74; 391-396, 2017.
 36. 加藤則人. 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2016年版について. Dermatology Today 28; 4-9, 2017.
 37. 加藤則人. 日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2016年版 - 外用療法を中心に. 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌 11; 215-219, 2017.
 38. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 年版の解説. 小児科臨床 70; 819-824, 2017.
 39. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2015 のワンポイント解説. アレルギー66; 991-994, 2017.
 40. 加藤則人. アレルギーマーチ・オーバービュー. 皮膚アレルギーフロンティア 15; 125-128, 2017.
 41. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 年版の概要. 小児科臨床 70; 1937-1942, 2017.
 42. 益田浩司、加藤則人. 多項目同時特異的IgE 検査の有用性. 医学と薬学 74; 599-605, 2017.
 43. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 年版の解説. Visual Dermatology 17; 51-55, 2018.
 44. 加藤則人. 皮膚アレルギー疾患対策の現状と課題. 特集: 急増するアレルギー疾患の現状と今後の対策~アレルギー疾患対策基本法の推進に向けての展望~. 医薬ジャーナル 54; 93-98, 2018.
 45. 高山かおる、片山一郎、室田浩之、佐藤貴浩、戸倉新樹、椛島健治、塩原哲夫、加藤則人、矢上晶子、足立厚子、横関博雄. 手湿疹診療ガイドライン. 日皮会誌 128; 367-386: 2018.
 46. 中原剛士 安全で効果的なステロイド療法 - ステロイド療法の効果的な使い方 皮膚疾患 臨床と研究 94(7): 832-836, 2017.
 47. 中原剛士 病気について知りたい! 臨床講座 小児のアトピー性皮膚炎 Pharma Tribune vol.9 No.8 5-10, 2017.
 48. 佐伯秀久:小児アトピー性皮膚炎 ガイドラインを中心に . MB ENT 204: 45-52, 2017.
 49. 佐伯秀久:アトピー性皮膚炎診療ガイドライン改訂の要点. 臨皮 71 (5): 143-7, 2017.
 50. 佐伯秀久: QOL 向上を目指したアトピー性皮膚炎診療:ガイドラインに沿った治療戦略. 日臨皮会誌 34 (3): 366-9, 2017.
 51. 佐伯秀久:アトピー性皮膚炎の病態と今後期待される新規治療. 皮膚臨床 59 (12): 1831-7, 2017.
 52. 佐伯秀久:アトピー性皮膚炎. In: 門脇孝他編. 診療ガイドライン UP-TO DATE 2018 2019, p654-8, 大阪:メディカルレビュー社, 2018.

53. 田中暁生：アトピー性皮膚炎、皮膚科の臨床、59; 703-710, 2017.
54. 田中暁生：汗とアトピー性皮膚炎、小児内科、49; 118-121, 2017.
55. 海老原全. アトピー性皮膚炎. 皮膚病診療 39 (増) : 106, 2017.
56. 海老原全. アトピー性皮膚炎-タクロリムス外用療法のポイント-. MB Derma 265; 27-32, 2018.
57. 海老原全. アトピー性皮膚炎. MB Derma 268; 11-17, 2018.
58. 二村昌樹、岡藤郁夫、山本貴和子、荒川浩一. 診療ガイドラインにおけるシステムティックレビューの方法. 日本小児アレルギー学会誌 31; 89-95, 2017.
59. 藤澤隆夫 小児アトピー性皮膚炎の新しいバイオマーカー：癌抗原 SCCA. 臨床皮膚科 2018, 72: 68-71.

< 学会発表 >

英語発表

1. Katoh N. Does patient with atopic dermatitis benefit from the use of H1-antihistamines? CK-CARE International Research Forum for Atopic Dermatitis. Davos, Switzerland, 2015.6.28.
2. Katoh N. H1-antihistamines in atopic dermatitis-Does it really work? Atopic Dermatitis Symposium-controversies and updates. Singapore, Singapore. 2015.11.13.
3. Katoh N. Management of atopic dermatitis in Japan. International Symposium for Atopic Dermatitis 2016. Sao Paulo, Brazil. 2016.5.20.
4. Katoh N. Adherence: the first goal in topical treatments. The 5th Congress of the Psoriasis International Network, Paris, France, 2016.7.8.
5. Katoh N. H1-antihistamines in atopic dermatitis-Does it really work? The 16th Asian

Dermatological Congress, Mumbai, India. 2016.10.16.

6. Katoh N. How do current therapies address skin inflammation response? Translating new concepts in the pathogenesis of atopic dermatitis into therapy. The 41th Annual Meeting of the Japanese Society for Investigative Dermatology, Sendai, Japan. 2016.12.9.

日本語発表

1. 加藤則人. こどもから大人まで - 皮膚の乾燥でおこる病気. 第 78 回日本皮膚科学会東京支部学術大会. 市民公開講座. 東京都 2015.2.22 .
2. 若森健、加藤則人. 京都府下の山間部小中学生のアトピー性皮膚炎検診. シンポジウム アトピー性皮膚炎の疫学. 第 64 回日本アレルギー学会. 2015.5.26. 東京都.
3. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドラインについて. 第 114 回日本皮膚科学会総会教育講演. 横浜市. 2015.5.30.
4. 加藤則人. アトピー性皮膚炎の外用療法 - 塗らない薬は効かない -. 第 114 回日本皮膚科学会総会. 横浜市. 2015.5.31.
5. 加藤則人. アトピー性皮膚炎のアドヒアランスを考える. 第 114 回日本皮膚科学会総会. 横浜市. 2015.5.31.
6. 加藤則人. アトピー性皮膚炎、手あれ、湿疹. ”こどもから大人まで - 皮膚の乾燥でおこる病気 “. 第 31 回日本臨床皮膚科医会・学術大会. 市民公開講座. 網走市 2015.6.21.
7. 二村昌樹 : 「プロアクティブ療法」を日常診療にどのように取り入れていくか? 第 52 回日本小児アレルギー学会 (奈良). 2015.11.22

8. 二村昌樹:アトピー性皮膚炎治療のエビデンス. 第2回総合アレルギー講習会(横浜). 2015.12.12.
9. 佐伯秀久:スイーツセミナー:アトピー性皮膚炎の治療;臨床から-改訂ガイドラインの内容を含めて-. 第66回日本皮膚科学会中部支部学術大会、神戸、2015.10.31.-11.1.
10. 佐伯秀久:パネルディスカッション:アトピー性皮膚炎患者の外用療法. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会、松江、2015.11.20-22.
11. 佐伯秀久:アトピー性皮膚炎診療ガイドライン. 日本アレルギー学会第2回総合アレルギー講習会、横浜、2015.12.13.
12. 中原剛士. シンポジウム「アレルギー予防と乳児期早期のブラックボックスへの挑戦」石垣島でのアトピー性皮膚炎のコホート研究 第64回日本アレルギー学会学術大会 2015.5.26. 東京
13. 中原剛士. シンポジウム アトピー性皮膚炎:アトピー性皮膚炎の内服療法 第45回 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会 2015.11.20-22. 島根
14. 海老原全. タクロリムス軟膏によるプロアクティブ療法は可能か. 第114回日本皮膚科学会総会、横浜、2015.5.
15. 海老原全. アトピー性皮膚炎の治療はどう変わっていくか. 痒みフォーラム 2015、さいたま、2015.7.
16. 海老原全. アトピー性皮膚炎患者指導の重要性. 第45回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会総会学術大会、松江、2015.11.
17. 海老原全. アトピー性皮膚炎の治療はどう変わっていくか. 第7回京阪・南海皮膚懇話会、大阪、2016.1.
18. 海老原全. アトピー性皮膚炎の治療はどう変わっていくか. 第8回東三河皮膚疾患懇話会、豊橋、2016.2.
19. 藤澤隆夫 アトピー性皮膚炎治療の勘どころ:ガイドライン 2015を中心に. 第63回福山小児科医会学術講演会 2015.10.7
20. 加藤則人. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン-改訂の要点. 第112回日本皮膚科学会総会学術大会. 2016.6.4. 京都市.
21. 加藤則人. アレルギーって何? どうして起こるの? 第12回府民公開講座、「アレルギーを学ぶ」. 2018.3.11.京都市.
22. 加藤則人. アトピー性皮膚炎のアドヒアランスを高めるポイント. 第79回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会. 2016.2.20. 東京都.
23. 加藤則人. 治らないアトピー性皮膚炎に診療ガイドラインは使えるか? 第12回アトピー性皮膚炎治療研究会シンポジウム. 2016.2.24. さいたま市.
24. 加藤則人. コーチング. 第116回日本皮膚科学会総会教育講演. 2017.6.4. 仙台市.
25. 加藤則人. アトピー性皮膚炎の新規治療. 第116回日本皮膚科学会総会教育講演. 2017.6.4. 仙台市.
26. 加藤則人. アレルギー性皮膚疾患. 第51回日本アレルギー学会専門医教育セミナー. 2017.6.18. 東京都.
27. 加藤則人. エキスパートが選ぶトピックス 2017-皮膚疾患. 第4回日本アレルギー学会総合アレルギー講習会. 2017.12.16. 横浜市.
28. 加藤則人. アトピー性皮膚炎の診療-重症例の治療、眼科との連携を中心に. 第42回日本小児眼科学会. 2017.6.17. 金沢市.
29. 加藤則人. 乾癬患者の治療アドヒアランスを高めるために. 第32回日本乾癬学会. 2017.9.8. 東京都.
30. 加藤則人. 慢性皮膚疾患の患者の治療アドヒアランスを高めるスキル. 第81回日

- 本皮膚科学会東京支部. 2017.11.19. 東京都.
31. 室田浩之, アトピー性皮膚炎患者に発汗の是非をどう説明するか, 第 116 回日本皮膚科学会総会, 仙台, 2017.
 32. 室田浩之, 意外な汗の免疫機能とその制御, 第 66 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2017.
 33. 佐伯秀久: シンポジウム: アトピー性皮膚炎診療: ガイドラインに沿った治療戦略. 第 33 回日本臨床皮膚科医会総会, 神戸, 2017 年 4 月 22 日
 34. 佐伯秀久: モーニングセミナー: アトピー性皮膚炎の病態と治療 - 今後期待される新規治療を含めて - 第 39 回日本光医学・光生物学会, 名古屋, 2017 年 7 月 21 日
 35. 佐伯秀久: モーニングセミナー: アトピー性皮膚炎患者の現状とそれを取り巻く環境. 第 69 回日本皮膚科学会西部支部, 熊本, 2017 年 10 月 29 日
 36. 佐伯秀久: アトピー性皮膚炎ガイドライン. 日本アレルギー学会第 4 回総合アレルギー講習会, 横浜, 2017 年 12 月 17 日
 37. 佐伯秀久: スポンサーセミナー: アトピー性皮膚炎の病態と治療 - 難治例を含めて - . アトピー性皮膚炎治療研究会第 23 回シンポジウム, 大宮, 2018 年 2 月 10 日.
 38. 田中暁生: いま変わりつつあるアトピー性皮膚炎の治療 ~ 最新の診療ガイドラインが目指すものとは ~、角膜カンファランス 2018、広島県、2018 年 2 月。
 39. 田中暁生: プロアクティブ療法は市民権をえたか、第 116 回日本皮膚科学会総会、宮城県、2017 年 6 月
 40. 秀道広: アレルギー疾患における治療目標と抗ヒスタミン薬の位置づけ. 第 117 回日本皮膚科学会静岡地方会. 2017 年 3 月、浜松市.
 41. 秀道広: 蕁麻疹とアトピー性皮膚炎における既存治療の限界と超克. 日本皮膚科学会東北 6 県合同地方会第 378 回例会. ランチョンセミナー. 5 月 14 日、仙台市.
 42. 秀道広: 皮膚アレルギーにおける抗ヒスタミン薬の役割とエビデンス. 第 68 回日本皮膚科学会中部支部学術大会. 2017 年 10 月、京都市.
 43. Hide M. Perspectives of antihistamines in the management of allergic skin diseases. 第 27 回国際痒みシンポジウム, 2017 年 11 月、東京都.
 44. 藤澤隆夫. アトピー性皮膚炎 治療の勘どころ: ガイドライン 2015 を中心に 京都小児科医会学術講演会 2017.6.3 京都市.
 45. 藤澤隆夫. シンポジウム「アレルギー疾患におけるバイオマーカー: 小児アトピー性皮膚炎を対象としたバイオマーカー 第 66 回日本アレルギー学会 2017.6.16 東京.
- G. 知的所有権の出願・登録状況
1. 特許取得
なし
 2. 実用新案登録
なし
 3. その他
なし

<別添資料>

1. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン クリニカルクエスチョン

- CQ1. アトピー性皮膚炎の治療にステロイド外用薬はすすめられるか
- CQ2. 皮疹が十分に軽快した後もステロイド外用薬を継続する場合、塗布頻度を減らす方法とランク（強さ）を下げて連用する方法のどちらがよいか
- CQ3. ステロイド外用薬の眼周囲への使用は眼合併症のリスクを高めるか
- CQ4. アトピー性皮膚炎の症状を改善するために抗菌外用薬を使用することはすすめられるか
- CQ5. アトピー性皮膚炎の治療にタクロリムス軟膏はすすめられるか
- CQ6. タクロリムス軟膏の外用は皮膚がんやリンパ腫の発症リスクを高めるか
- CQ7. アトピー性皮膚炎の治療に抗ヒスタミン薬はすすめられるか
- CQ8. 再燃を繰り返すアトピー性皮膚炎の湿疹病変の寛解維持にプロアクティブ療法は有用か
- CQ9. アトピー性皮膚炎の治療に保湿剤外用はすすめられるか
- CQ10. アトピー性皮膚炎にシャワー浴は有用か
- CQ11. アトピー性皮膚炎の病勢マーカーとして血清 TARC 値は有用か
- CQ12. 重症アトピー性皮膚炎の治療にシクロスポリン内服はすすめられるか
- CQ13. アトピー性皮膚炎の治療に漢方療法は有用か
- CQ14. アトピー性皮膚炎の治療に環境中のダニ抗原除去はすすめられるか
- CQ15. アトピー性皮膚炎の治療にアレルゲン除去食は有用か
- CQ16. 妊娠中・授乳中の食事制限は児のアトピー性皮膚炎発症予防に有用か
- CQ17. 乳幼児アトピー性皮膚炎の症状改善にプロバイオティクスを投与することはすすめられるか
- CQ18. アトピー性皮膚炎は年齢とともに寛解することが期待できるか
- CQ19. 妊娠・授乳中の抗ヒスタミン剤内服は安全か
- CQ20. 妊娠・授乳中のステロイド外用は安全か
- CQ21. 石鹸を含む洗浄剤の使用はアトピー性皮膚炎の管理に有用か
- CQ22. 乳児の湿疹に沐浴剤は有用か
- CQ23. アトピー性皮膚炎の治療にポビドンヨード液の使用はすすめられるか
- CQ24. アトピー性皮膚炎の治療にブリーチバス療法はすすめられるか
- CQ25. 日焼け止めはアトピー性皮膚炎の悪化予防にすすめられるか
- CQ26. ペットの飼育、動物との接触を回避する指導はアトピー性皮膚炎の発症予防や症状改善に有用か

2. アトピー性皮膚炎診療ガイドラインでのエビデンスレベルと推奨度

1. アトピー性皮膚炎診療ガイドラインでのエビデンスレベル

エビデンスレベルは、それぞれのクリニカルクエスチョンに対する複数のエビデンスから、最終的に“1つのエビデンスの質”として判定する。

エビデンスレベルを決める際には、表1を参考にして、研究デザインを出発点として使用し、研究の質、結果が一貫・一致しているか、研究の対象・介入・アウトカムは想定している状況に一致しているか、種々のバイアスの有無や程度などから総合的に判断して、A～Cの3段階で分類する。

それぞれ「A：結果はほぼ確実であり、今後研究が新しく行われても結果が大きく変化する可能性は少ない」「B：結果を支持する研究があるが十分ではないため、今後研究が行われた場合に結果が大きく変化する可能性がある」「C：結果を支持する質の高い研究がない」ことを示す（表2）。

2. アトピー性皮膚炎診療ガイドラインでの推奨度

推奨は、エビデンスレベルや臨床経験、益と害のバランス、価値観や治療に対する希望をもとに、推奨した治療によって得られると見込まれる利益の大きさと、利益と治療によって生じうる害や負担とのバランスから総合的に判断して、「1：強い推奨」と「2：弱い推奨」の2段階で判定する。

「強い推奨」とは、得られているエビデンスと臨床経験から判断して、推奨した治療などによって得られる利益が大きく、かつ、治療によって生じうる害や負担を上回ると考えられることを指す（表3）。この場合、医師は、患者の価値観や好み、意向をふまえたうえで、推奨された治療を提案することが望ましい。「弱い推奨」とは、得られているエビデンスと臨床経験から判断して、推奨した治療によって得られる利益の大きさは不確実である、または、治療によって生じうる害や負担と利益が拮抗していると考えられることを指す（表3）。この場合、医師は、推奨された治療を行うかどうか、患者の価値観や好み、意向もふまえたうえで、患者とよく相談する必要がある。

なお、推奨度をつけにくいCQsについては、エビデンスレベルの評価のみを行う。

表1 エビデンスレベルの参考とした研究デザイン

A	質の高い、かつ、多数の一致した結果の無作為化比較試験 無作為化比較試験のメタアナリシス
B	不一致な結果の無作為化比較試験 質に疑問のある、または、少数の無作為化比較試験 非無作為化比較試験*1 多数の一致した結果の前後比較試験や観察研究*2
C	少数の前後比較試験や観察研究、症例報告、専門家の意見

表2 エビデンスレベル

A（高い）	結果はほぼ確実であり、今後研究が新しく行われても結果が大きく変化する可能性は少ない
B（低い）	結果を支持する研究があるが十分ではないため、今後研究が行われた

	場合に結果が大きく変化する可能性がある
C(とても低い)	結果を支持する質の高い研究がない

表3 推奨の強さ

1: 強い推奨 (recommend)	推奨された治療によって得られる利益が大きく、かつ、治療によって生じる負担を上回ると考えられる
2: 弱い推奨 (suggest)	推奨した治療によって得られる利益の大きさは不確実である、または、治療によって生じる害や負担と拮抗していると考えられる

表4 推奨度とエビデンスレベルによる臨床的意味

1A	根拠のレベルが高く、治療によって得られる利益は大きく、かつ、生じる害や負担を上回ると考えられる したがって、医師は、推奨した治療を行うことが勧められる
1B 1C	根拠のレベルは低い (B)、または、とても低い (C)が、治療によって得られる利益は大きく、かつ、生じる害や負担を上回ると考えられる したがって、医師は、根拠が十分でないことを理解したうえで、推奨した治療を行うことが勧められる
2A 2B 2C	推奨した治療によって得られる利益の大きさは不確実である、または、治療によって生じる害や負担と拮抗していると考えられる。根拠のレベルは、高い (A)、低い (B)、とても低い (C) したがって、医師は、治療を選択して提示し、患者と治療を行う(または行わない)か相談することが勧められる

3. アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 疾患解説の項目

1. はじめに 経緯、免責、方法、エビデンスレベル、推奨度
2. 定義など 病態、疫学、経過、予後
3. 診断 診断基準、皮疹の特徴、鑑別診断、重症度、QOL 評価法、検査
4. 治療 目標、イントロダクション
5. スキンケア 保湿外用剤、シャワー・入浴、清拭など
6. 薬物療法 ステロイド外用薬、タクロリムス外用薬、プロアクティブ療法、シクロスポリン、抗ヒスタミン薬、ステロイド内服薬、漢方薬、妊婦・授乳婦への配慮など
7. 悪化因子 非特異的刺激、食物、汗、吸入アレルゲン、接触アレルゲン、細菌・真菌
8. 心身医学的側面
9. 合併症 アレルギー疾患、感染症の診断と治療、眼合併症
10. 紫外線療法
11. 入院治療 適応
12. 小児での注意事項
13. 教育
14. その他 プロバイオティクス、補完代替療法など
15. 治療アドヒアランス
16. 専門医師への紹介
17. 治療の手順 アルゴリズム

・研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
加藤則人	アトピー性皮膚炎	瀧川雅浩、渡辺晋一	皮膚疾患 最新の治療2014-2015	南江堂	東京	2015	31-33
加藤則人	アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法は有用か？	宮地良樹	EBM 皮膚疾患の治療up-to-date	中外医学社	東京	2015	8-12
加藤則人	ライフステージに合わせたステロイド外用療法の実際 - 成人	塩原哲夫	アトピー性皮膚炎治療のためのステロイド外用薬パーフェクトブック	南江堂	東京	2015	131-137
加藤則人	アトピー性皮膚炎に対してタクロリムス軟膏とステロイド外用剤の比較は？	河合眞一	実践に活かす！ステロイドのエビデンス	羊土社	東京	2015	230-231
加藤則人	アトピー性皮膚炎に対するステロイド外用薬のランクと使用期間に関するエビデンスは？	河合眞一	実践に活かす！ステロイドのエビデンス	羊土社	東京	2015	232-234
加藤則人	アトピー性皮膚炎	山口徹、北原光夫	今日の治療指針 2015年版	医学書院	東京	2015	1136-1137
Tamagawa-Mineoka R, Katoh N.	Role of platelets in immunology of the skin. Immunology of the skin.	Kabashima K	Basic and clinical sciences in skin immune responses	Springer Japan	Tokyo	2016	213-227
加藤則人	外用ステロイドの特徴と使い分け	金澤一郎、永井良三	今日の治療指針 2016年版	医学書院	東京	2016	1226
加藤則人	スキンケアでアトピー性皮膚炎は予防できるか？	宮地良樹、鶴田大輔	WHAT'S NEW in 皮膚科学2016-2017	メディカルレビュー社	東京	2016	24-25

戸田さゆり、秀道広	アトピー性皮膚炎の評価方法と重症度分類	塩原哲夫	アトピー性皮膚炎治療のためのステロイド外用薬パーフェクト	南山堂	東京	2015	88-97
横林ひとみ、秀道広	Primary Care Review アトピー性皮膚炎の診断と治療	小嶋一、本村和久、井上真智子	新・総合診療医学 Case & Review	カイ書林	東京	2015	116-120
田中暁生	アトピー性皮膚炎の疫学	佐藤伸一	医学の歩み アトピー性皮膚炎	医歯薬出版株式会社	東京	2016	5-9
佐伯秀久	アレルギー疾患：アトピー性皮膚炎	田原卓宏他	移行期医療	中山書店	東京	2015	65-72
田中暁生	アトピー性皮膚炎の疫学調査からわかったこと	宮地良樹、鶴田大輔	WHAT'S NEW in 皮膚科学	メディカルレビュー社	東京	2016	48-49
加藤則人	外用ステロイドの特徴と使い分け	金澤一郎、永井良三	今日の治療指針 2016年版	医学書院	東京	2016	1226
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドラインの検証	古川福実、渡辺晋一	皮膚疾患最新の治療 2016-2017	南江堂	東京	2016	5-7
海老原全	タクロリムス水和物軟膏の上手な使い方を教えてください	大谷道輝 宮地良樹	マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術	メディカルレビュー社	東京	2016	50-51
海老原全	アトピー性皮膚炎の全身療法	佐藤伸一	別冊・医学のあゆみアトピー性皮膚炎	医歯薬出版社	東京	2016	95-99
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎	渡辺晋一他	皮膚疾患最新の治療 2017-2018	南江堂	東京	2017	37-39
中原剛士	アトピー性皮膚炎におけるステロイド外用薬のプロアクティブ療法について教えてください。	大谷道輝 宮地良樹	マイスターから学ぶ皮膚科治療薬の服薬指導術	メディカルレビュー社	東京	2016	34-35

中原剛士	アトピー性皮膚炎の プロアクティブ療法	宮地良樹	そこが知りたい 達人が伝授する日 常皮膚診療の極意 と重ロゼ	全日本病院 出版会	東京	2016	123-128
中原剛士	思春期・成人期アト ピー性皮膚炎	宮坂信之	別冊日本臨牀	日本臨牀社	大阪	2016	108-113
Katoh N	Systemic Treatment	Katayama I, Murota H, Satoh T	Evolution of atopic dermatitis in the 21st century.	Springer Nature	Singapo- re	2017	289-300
加藤則人	アトピー性皮膚炎診 療ガイドラインの検 証	古川福実、 渡辺晋一	皮膚疾患最新の 治療 2017-2018	南江堂	東京	2017	5-7
加藤則人	外用ステロイドの特 徴と使い分け	金澤一郎、永 井良三	今日の治療指針 2017年版	医学書院	東京	2017	1176
加藤則人	アトピックドライス キンにもステロイド 外用薬を使用すべ きか	宮地良樹	専門医でも聞きた い皮膚科診療100 の質問	メディカル レビュー社	東京	2017	32-34
加藤則人	アトピー性皮膚炎 (成人)	秀道広、青山 裕美、加藤則 人	パワーアップ皮膚 科診療ハンドブッ ク	中山書店	東京	印刷中	
加藤則人	アトピー性皮膚炎	金澤一郎、永 井良三	今日の治療指針 2019年版 - 私はこ うして治療してい る	医学書院	東京	印刷中	
加藤則人	「アトピックドライ スキン」、 「Hertoghe徴候、 「Dennie's line」	宮地良樹、安 部正敏	ジェネラリスト必 携！この皮膚疾患 のこの発疹	医学書院	東京	印刷中	
加藤則人	「プロアクティブ療 法はどこまで有用 か?」、「アトピッ クドライスキン」	宮地良樹、大 嶋勇成	こどもの皮膚の見 方	診断と治療 社	東京	印刷中	

加藤則人	アトピー性皮膚炎	矢崎義雄	新臨床内科学 第10版	医学書院	東京	印刷中	
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎	門脇 孝他	診療ガイドライン UP-TO DATE 2018 ~ 2019	メディカルレビュー社	大阪	2018	654-658
Saeki H	Diagnosis and Japanese guideline	Katayama I, Murota H, Satoh T	Evolution of atopic dermatitis in the 21st century.	Springer Nature	Singapore	2017	265-80
Nakahara T	Lifestyle of Japan and atopic dermatitis	Ichiro Katayama	Evolution of atopic dermatitis in the 21st century	Springer Nature	Singapore	2017	369-381
秀 道広	アトピー性皮膚炎	矢崎義男	朝倉内科学	朝倉書店	東京	2017	1336-1337
海老原全	皮膚常在菌とアトピー性皮膚炎	宮地良樹、常深祐一郎	WHAT'S NEW in 皮膚科学 2018-2019	メディカルレビュー社	東京	2018	22-23
二村昌樹	ここから始める食物アレルギー	二村昌樹	ここから始める食物アレルギー	医学と看護社	東京	2018	1-52
二村昌樹	とことん解説I アトピー性皮膚炎	大矢幸弘	子どものアレルギー アトピー性皮膚炎・食物アレルギー・気管支喘息	文芸春秋	東京	2017	62-87

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
加藤則人	皮膚症状からの評価. - アレルギー疾患の有効性評価 -	アレルギー・免疫	22	88-93	2015
加藤則人	皮膚疾患に対する内服薬のアドヒアランスを高めるためには	Dermatology Today	20	12-17	2015
加藤則人	小児アトピー性皮膚炎の治療	MB Derma	236	8-13	2015
加藤則人	アトピー性皮膚炎とautoantigen	臨床免疫・アレルギー科	64	250-254	2015
加藤則人	総合アレルギー専門医に求められる皮膚科領域	喘息	28	61-65	2015
加藤則人	皮膚アレルギーのトピックス	医学と薬学	72	1697-1701	2015
加藤則人	京都府下の一地区におけるアトピー性皮膚炎の疫学調査	臨床免疫・アレルギー科	64	546-549	2015
加藤則人	アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス	医学のあゆみ	256	75-79	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎	BIO Clinica	31	23-27	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎	小児内科	48	459-463	2016
加藤則人	ステロイド外用薬	レジデント	9	14-20	2016
秀 道広	アトピー性皮膚炎・蕁麻疹の疫学	アレルギーの臨床	35	1035-1038	2015
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2015—薬物療法のポイント—	アレルギー	64	1306-1312	2015
佐伯秀久	アレルギー疾患ガイドラインダイジェスト：アトピー性皮膚炎	アレルギーの臨床	35	844-848	2015
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎のガイドライン概説	医学のあゆみ	256	43-48	2015
中原 剛士, 中原 真希子	かゆみは何のためにあるのか：かゆみと疾患 アトピー性皮膚炎	臨床と研究	92	420-426	2015
中原剛士、竹内聡、古江増隆	石垣島におけるアトピー性皮膚炎のコホート研究	臨床免疫・アレルギー科	64	540-545	2015
長尾みづほ	新生児期・乳児期の皮膚疾患 乳児アトピー性皮膚炎	小児科診療	78	1458-62	2015

長尾みづほ	【小児を診る!皮膚科医の心得】(第I部)(1章)知っておきたい療法 食物アレルギーに対する経口免疫療法	皮膚科の臨床	57	950-7	2015
鈴木加余子、松永佳世子、矢上晶子、足立厚子、池澤優子、伊藤明子、乾重樹、上津直子、海老原全、ほか	ジャパニーズスタンダードアレルギー(2008)の陽性率 2010年~2012年の推移	J Environ Dermatol Cutan Allergol	9	101-109	2015
加藤 則人, 佐伯 秀久, 中原 剛士, 田中 暁生, 椋島 健治, 菅谷 誠, 室田 浩之, 海老原 全, 片岡 葉子, 相原 道子, 江藤 隆史	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 年版	日皮会誌	126	121-55	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス	医学のあゆみ	256	75-79	2016
加藤則人	アドヒアランスから考える外用薬の現状. - 皮膚領域の外用療法を見直す -	Progress in Medicine	34	2095-2098	2016
加藤則人	皮膚アレルギーに関する最近のトピックス	日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌	10	1-5	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎	BIO Clinica	31:	23-27	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎	小児内科	48	459-463	2016
加藤則人	ステロイド外用薬	レジデント	9	14-20	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎の新しい治療について	日臨皮誌	33	601-603	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎の治療アドヒアランス. アトピー性皮膚炎 UPDATE	別冊. 医学のあゆみ	256	74-78	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン	日内会誌	106	586-590	2017
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016 の解説	医学と薬学	74	391-396	2017
田中暁生	アトピー性皮膚炎の疫学	医学のあゆみ	256	5-9	2016
秀 道広, 田中暁生	アレルギー性皮膚疾患診療の勘所	日内会誌	105	1942-51	2016

海老原全	アトピー性皮膚炎の全身療法	医学のあゆみ	256	96-100	2016
川崎洋、海老原全	マイクロバイオーム (microbiome)	臨床皮膚科	70	47-52	2016
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016年版の概説	皮膚と美容	48	59-65	2016
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン	日本医師会雑誌	145	S74	2016
二村昌樹、二村恭子	アトピー性皮膚炎の標準治療のこれ までとこれから	チャイルドヘルス	19	735-738	2016
中原剛士	アトピー性皮膚炎の治療アドヒアラン ス	アレルギーの臨床	36-492	22-26	2016
中原剛士、森本宏、 村上尚史、古江増隆	アトピー性皮膚炎治療におけるタク ロリムスの新たな役割 - 最近の話題	西日本皮膚科	78-5	468-474	2016
中原真希子、中原剛 士	アレルギー疾患の治療 アトピー性 皮膚炎	臨床と研究	93-2	163-169	2016
藤澤隆夫	アレルギー疾患の診かた-小児科	日本医師会雑誌	145	s82-53	2016
藤澤隆夫、 長尾みづほ	消化管アレルギーの診断と治療-薬 物療法	小児内科	48	1336-39	2016
長尾みづほ 他	新生児期から始めるスキンケア	チャイルドヘルス	19	935-938	2016
二村昌樹、山本貴和 子、齋藤麻耶子、 Batchelor J, 中原真希 子、中原剛士、古江 増隆、大矢幸弘.	ステロイド外用薬への不安評価尺度 TOPICOP 日本語版の作成と実行可 能性の検討.	アレルギー	65	66-72	2016
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン	日内会誌	106	586-590	2017
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016の解説	医学と薬学	74	391-396	2017
加藤則人	日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診 療ガイドライン 2016 年版について	Dermatology Today	28	4-9	2017
加藤則人	日本皮膚科学会アトピー性皮膚炎診 療ガイドライン 2016 年版 - 外用療 法を中心に	日本皮膚アレルギー・接 触皮膚炎学会雑誌	11	215-219	2017
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン	日内会誌	106	586-590	2017
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2016年版の解説	小児科臨床	70	819-824	2017
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン 2015のワンポイント解説	アレルギー	66	991-994	2017

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2016年版の概要	小児科臨床	70	1937-1942	2017
加藤則人	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2016年版の解説	Visual Dermatology	17	51-55	2018
加藤則人	皮膚アレルギー疾患対策の現状と課題	医薬ジャーナル	54	93-98	2018
加藤則人	アトピー性皮膚炎	モダンフィジシャン	(印刷中)		
高山かおる、片山一郎、室田浩之、佐藤貴浩、戸倉新樹、椛島健治、塩原哲夫、加藤則人、矢上晶子、足立厚子、横関博雄	手湿疹診療ガイドライン	日皮会誌	128	367-386	2018
佐伯秀久	小児アトピー性皮膚炎 ガイドラインを中心に	MB ENT	204	45-52	2017
佐伯秀久	アトピー性皮膚炎診療ガイドライン改訂の要点	臨皮	71	143-147	2017
益田浩司、加藤則人	多項目同時特異的IgE検査の有用性	医学と薬学	74	599-605	2017
田中暁生	アトピー性皮膚炎	皮膚科の臨床	59	703-710	2017
田中暁生	汗とアトピー性皮膚炎	小児内科	49	118-121	2017
海老原全	アトピー性皮膚炎	皮膚病診療	39(増)	106	2017
海老原全	アトピー性皮膚炎-タクロリムス外用療法のポイント-	MB Derma	265	27-32	2018
海老原全	アトピー性皮膚炎	MB Derma	268	11-17	2018
二村昌樹、岡藤郁夫、山本貴和子、荒川浩一	診療ガイドラインにおけるシステムティックレビューの方法	日本小児アレルギー学会誌	31	89-95	2017
藤澤隆夫	小児アトピー性皮膚炎の新しいバイオマーカー：癌抗原SCCA	臨床皮膚科	72	68-71	2018

英語雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ito T, Wada M, Nagae K, Nakano-Nakamura M, Nakahara T, Hagihara A, Furue M, Uchi H.	Triple-marker PCR assay of sentinel lymph node as a prognostic factor in melanoma.	J Eur Acad Dermatol Venereol.	29	912-8	2015
Furue M, Hagihara A, Takeuchi S, Murota H, Sugaya M, Masuda K, Hiragun T, Kaneko S, Saeki H, Shintani Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Kitami Y, Tanioka M, Imafuku S, Abe M, Inomata N, Morisky DE, Katoh N.	Poor adherence to oral and topical medication in 3096 dermatological patients as assessed by Morisky Medication Adherence Scale- 8.	Br J Dermatol	172	272-275	2015
Kido-Nakahara M, Katoh N, Saeki H, Mizutani H, Hagihara A, Takeuchi S, Nakahara T, Masuda K, Tamagawa- Mineoka R, Nakagawa H, Omoto Y, Matsubara K, Furue M.	Comparative cut-off value setting of pruritus intensity in visual analogue scale and verbal rating scale.	Acta Derm Venereol	95	345-346	2015
Saeki H, Imafuku S, Abe M, Shintani Y, Onozuka D, Hagihara A, Katoh N, Murota H, Takeuchi S, Sugaya M, Tanioka M, Kaneko S, Masuda K, Inomata N, Hiragun T, Kitami Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Morisky DE, Furue M.	Poor adherence to medication as assessed by the Morisky Medication Adherence Scale- 8 and low satisfaction with treatment in 237 psoriasis patients.	J Dermatol	42	367-372	2015
Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Ueda S, Nakamura N, Hotta E, Hattori J, Minamiyama R, Yamazaki A, Katoh N.	Contact sensitivity in patients with recalcitrant atopic dermatitis.	J Dermatol	42	720-722	2015

Furue M, Tsuji G, Mitoma C, Nakahara T, Chiba T, Morino-Koga S, Uchi H.	Gene regulation of filaggrin and other skin barrier proteins via aryl hydrocarbon receptor.	J Dermatol Sci	80	83-88	2015
Aktar MK, Kido-Nakahara M, Furue M, Nakahara T.	Mutual upregulation of endothelin-1 and IL-25 in atopic dermatitis.	Allergy	70	846-54	2015
Nakamura N, Tamagawa-Mineoka R, Ueta M, Kinoshita S, Katoh N.	Toll-like receptor-3 in murine contact hypersensitivity reaction.	J Invest Dermatol	135	411-417	2015
Takei K, Hashimoto-Hachiya A, Takahara M, Tsuji G, Nakahara T, Furue M.	Cynaropicrin attenuates UVB-induced oxidative stress via the AhR-Nrf2-Nqo1 pathway.	Toxicol Lett.	234	74-80	2015
Kaneko S, Masuda K, Hiragun T, Inomata N, Furue M, Onozuka D, Takeuchi S, Murota H, Sugaya M, Saeki H, Shintani Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Kitami Y, Tanioka M, Imafuku S, Abe M, Hagihara A, Morisky DE, Katoh N.	Transient improvement of urticaria induces poor adherence as assessed by Morisky Medication Adherence Scale-8.	J Dermatol	42	1078-1082	2015
Murota H, Takeuchi S, Sugaya M, Tanioka M, Onozuka D, Hagihara A, Saeki H, Imafuku S, Abe M, Shintani Y, Kaneko S, Masuda K, Hiragun T, Inomata N, Kitami Y, Tsunemi Y, Abe S, Kobayashi M, Morisky DE, Furue M, Katoh N.	Characterization of socioeconomic status of Japanese patients with atopic dermatitis showing poor medical adherence and reasons for drug discontinuation.	J Dermatol Sci	79	279-287	2015
Shiratori-Hayashi M, Koga K, Tozaki-Saitoh H, Kohro Y, Toyonaga H, Yamaguchi C, Hasegawa A, Nakahara T, Hachisuka J, Akira S, Okano H, Furue M, Inoue K, Tsuda M.	STAT3-dependent reactive astrogliosis in the spinal dorsal horn underlies chronic itch.	Nat Med	21	927-931	2015

Ito T, Kaku Y, Nagae K, Nakano-Nakamura M, Nakahara T, Oda Y, Hagihara A, Furue M, Uchi H.	Tumor thickness as a prognostic factor in extramammary Paget's disease.	J Dermatol	42	269-75	2015
Nakahara T, Mitoma C, Hashimoto-Hachiya A, Takahara M, Tsuji G, Uchi H, Yan X, Hachisuka J, Chiba T, Esaki H, Kido-Nakahara M, Furue M.	Antioxidant Opuntia ficus-indica extract activates AHR-NRF2 signaling and upregulates filaggrin and loricrin expression in human keratinocytes.	J Med Food	18	1143-9.	2015
Nakahara T, Moroi Y, Takayama K, Nakanishi Y, Furue M.	Analysis of sebum lipid composition and the development of acneiform rash before and after administration of egfr inhibitor.	Curr Oncol	22	e124-7.	2015
Takei K, Mitoma C, Hashimoto-Hachiya A, Takahara M, Tsuji G, Nakahara T, Furue M.	Galactomyces fermentation filtrate prevents T helper 2-mediated reduction of filaggrin in an aryl hydrocarbon receptor-dependent manner.	Clin Exp Dermatol	40	786-93	2015
Ito T, Wada M, Nagae K, Nakano-Nakamura M, Nakahara T, Hagihara A, Furue M, Uchi H.	Acral lentiginous melanoma: who benefits from sentinel lymph node biopsy?	J Am Acad Dermatol	72	71-7	2015
Nakahara T, Moroi Y, Takayama K, Itoh E, Kido-Nakahara M, Nakanishi Y, Furue M.	Changes in sebum levels and the development of acneiform rash in patients with non-small cell lung cancer after treatment with EGFR inhibitors.	Onco Targets Ther	8	259-63	2015
Takei K, Mitoma C, Hashimoto-Hachiya A, Uchi H, Takahara M, Tsuji G, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Furue M.	Antioxidant soybean tar Glyteer rescues T-helper-mediated downregulation of filaggrin expression via aryl hydrocarbon receptor.	J Dermatol	42	171-80	2015

Sakurai Y; Morioka S, Takdeda T, Takahagi S, Hide M, Shima M.	Increased thrombin generation potential in patients with chronic spontaneous urticaria.	Allergol Int	64	96-98	2015
Ito T, Inatomi Y, Nagae K, Nakano-Nakamura M, Nakahara T, Furue M, Uchi H.	Narrow-margin excision is a safe, reliable treatment for well-defined, primary pigmented basal cell carcinoma: an analysis of 288 lesions in Japan.	J Eur Acad Dermatol Venereol	29	1828-31	2015
Yokoji T, Okamura Y, Chinuki Y, Morita E, Harada S, Hiragun M, Hide M, Matsuo H.	Prevalences of specific IgE to wheat gliadin components in patients with wheat-dependent exercise-induced anaphylaxis.	Allergol Int	64	206-208	2015
Kobayashi K, Sakamoto K, Yanase Y, Hide M, Miyake R.	Micro cell isolation column for anergic diagnosis.	Japanese J Applied Physics	55	03DF08-1-03DF08-6	2016
Tamura M, Kawasaki H, Masunaga T, Ebihara T.	Equivalence evaluation of moisturizers in atopic dermatitis patients.	J Cosmet Sci	66	295-303	2015
Onitake T, Ueno Y, Tanaka S, Sagami S, Hayashi R, Nagai K, Hide M, Chayama K.	Pulverized konjac glucomannan ameliorates oxazolone-induced colitis in mice.	Eur J Nutr	54	959-969	2015
Saeki H, Nakahara T, Tanaka A, Kabashima K, Sugaya M, Murota H, Ebihara T, Kataoka Y, Aihara M, Etoh T, Katoh N .	Clinical practice guidelines for the management of atopic dermatitis 2016 .	J Dermatol	43	1117-1145.	2016
Hiragun M, Ishii K, Yanase Y, Hiragun M, Hide M.	Remission rate of patients with wheat allergy sensitized to hydrolyzed wheat protein in facial soap.	Allergol Int	65	109-111	2016
Yanase Y, Hide M.	Surface plasmon resonance for clinical diagnosis of type I allergy.	Label-Free Biosensor Methods in Drug Discovery		373-385	2016

Chiba T, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, Yokomizo T, Uchi H, Furue M.	The leukotriene B ₄ receptor BLT2 protects barrier function via actin polymerization with phosphorylation of myosin phosphatase target subunit 1 in human keratinocytes.	Exp Dermatol	25	532-536	2016
Mizutani H, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Katoh N.	Serum IL-21 levels are elevated in atopic dermatitis patients with acute skin lesions.	Allergol Int	66	440-444.	2016
Yamaguchi C, Futamura M, Chamlin SL, Ohya Y, Asano M.	Development of a Japanese Culturally Modified Version of the childhood atopic dermatitis impact scale (JCMV-CADIS).	Allergol Int	65	312-9	2016
Shoda T, Futamura M, Yang L, Yamamoto-Hanada K, Narita M, Saito H, Ohya Y.	Timing of eczema onset and risk of food allergy at 3 years of age: A hospital-based prospective birth cohort study.	J Dermatol Sci	84	144-148	2016
Chiba T, Nakahara T, Hashimoto-Hachiya A, Yokomizo T, Uchi H, Furue M.	The leukotriene B ₄ receptor BLT2 protects barrier function via actin polymerization with phosphorylation of myosin phosphatase target subunit 1 in human keratinocytes.	Exp Dermatol	25	532-6	2016
Kido-Nakahara M, Furue M, Ulzii D, Nakahara T.	Itch in Atopic Dermatitis.	Immunol Allergy Clin North Am	37	113-122	2017
Shoda T, Futamura M, Yang L, Narita M, Saito H, Ohya Y.	Yogurt consumption in infancy is inversely associated with atopic dermatitis and food sensitization at 5 years of age: A hospital-based birth cohort study.	J Dermatol Sci	86	90-96	2017

Furue M, Chiba T, Tsuji G, Ulzii D, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kadono T.	Atopic dermatitis: immune deviation, barrier dysfunction, IgE autoreactivity and new therapies.	Allergol Int	66	398-403.	2017
Yamamura K, Uruno T, Shiraishi A, Tanaka Y, Ushijima M, Nakahara T, Watanabe M, Kido-Nakahara M, Tsuge I, Furue M, Fukui Y.	The transcription factor EPAS1 links DOCK8 deficiency to atopic skin inflammation via IL-31 induction.	Nat Commun	8	13946.	2017
Tamagawa-Mineoka R, Nakamura N, Ueda S, Masuda K, Katoh N.	Patch testing in patients with recurrent vesicular hand eczema.	Allergol Int	66	632-633	2017
Mizutani H, Tamagawa-Mineoka R, Minami Y, Yagita K, Katoh N.	Constant light exposure impairs immune tolerance development in mice.	J Dermatol Sci	86	63-70	2017
Yasuie R, Tamagawa-Mineoka R, Nakamura N, Ueta M, Katoh N.	The role of Toll-like receptor 3 in chronic contact hypersensitivity induced by repeated elicitation.	J Dermatol Sci	88	184-191	2017
Tamagawa-Mineoka R, Yasuoka N, Ueda S, Katoh N.	Influence of topical steroids on intraocular pressure in patients with atopic dermatitis	Allergol Int	pii: S1323-8930 (18) 30004-2		2018
Nakamura N, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Katoh N.	Immediate-type allergic reactions to local anesthetics.	Allergol Int	67	160-161	2018
Katayama I, Saeki H, et al.	Japanese guideline for atopic dermatitis 2017.	Allergol Int	66	230-247	2017
Murota H, Katayama I.	Exacerbating factors of itch in atopic dermatitis.	Allergol Int	66	8-13	2017
Ueta M, Hamuro J, Nishigaki H, Nakamura N, Shinomiya K, Mizushima K, Hitomi Y, Tamagawa-Mineoka R, Yokoi N, Naito Y, Tokunaga K, Katoh N, Sotozono C, Kinoshita S.	Mucocutaneous inflammation in the Ikaros Family Zinc Finger 1 (IKZF1) - keratin 5 specific transgenic mice.	Allergy	73	395-404	2018

Tsuji G, Hashimoto-Hachiya A, Kiyomatsu-Oda M, Takemura M, Ohno F, Ito T, Morino-Koga S, Mitoma C, Nakahara T, Uchi H, Furue M.	Aryl hydrocarbon receptor activation restores filaggrin expression via OVOL1 in atopic dermatitis	Cell Death Dis	13;8(7):e2931.	doi: 10.1038/cddis.2017.322.	2017
Nakahara T, Kido-Nakahara M, Ohno F, Ulzii D, Chiba T, Tsuji G, Furue M.	The pruritogenic mediator endothelin-1 shifts the dendritic cell-T-cell response toward Th17/Th1 polarization	Allergy	73(2)	511-515.	2018
Yasukochi Y, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kuroki R, Koga T, Mashino T, Kurihara Y, Furue M.	Clinical bandings of Patient-Oriented Eczema Measure scores among Japanese patients with atopic eczema	Br J Dermatol	177(5):e211-e212.	doi: 10.1111/bjd.15599.	2017
Uryu M, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Chiba T, Furue M.	Epidermal p16INK4a expression is more frequently and intensely upregulated in lichen planus than in eczema, psoriasis, drug eruption and graft-versus-host disease	J Dermatol	44(3)	343-344	2017
Itoh E, Nakahara T, Murata M, Ito T, Onozuka D, Furumura M, Hagihara A, Furue M.	Chronic spontaneous urticaria: Implications of subcutaneous inflammatory cell infiltration in an intractable clinical course	J Allergy Clin Immunol	139	363-366	2017
Nakahara T, Morimoto H, Murakami N, Furue M.	Mechanistic insights on topical tacrolimus for the treatment of atopic dermatitis	Pediatr Allergy Immunol	doi: 10.1111/pai.12842.	doi: 10.1111/pai.12842.	2017
Furue M, Kadono T, Tsuji G, Nakahara T.	Topical E6005/RVT -501, a novel phosphodiesterase 4 inhibitor, for the treatment of atopic dermatitis	Expert Opin Investig Drugs	26(12)	1403-1408.	2017
Furue M, Yamamura K, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Fukui Y.	Emerging role of interleukin-31 and interleukin-31 receptor in pruritus in atopic dermatitis	Allergy	doi: 10.1111/all.13239	doi: 10.1111/all.13239	2017
Furue M, Chiba T, Tsuji G, Ulzii D, Kido-Nakahara M, Nakahara T, Kadono T.	Atopic dermatitis: immune deviation, barrier dysfunction, IgE autoreactivity and new therapies	Allergol Int	66	398-403	2017
Hiragun T, Hiragun M, Ishii K, Kan T, Hide M.	Sweat allergy: extrinsic or intrinsic?	J Dermatol Sci	87	3-9	2017
Iwamoto K, Moriwaki M, Niitsu Y, Saino M, Takahagi S, Hisatsune J, Sugai M, Hide M.	Staphylococcus aureus from atopic dermatitis skin alters cytokine production triggered by monocyte-derived Langerhans cell	J Dermatol Sci	88	271-279	2017

Okamoto M, Takahagi S, Tanaka A, Ogawa A, Nobuki H, Hide M.	A case of Kaposi's varicelliform eruption progressing to herpes simplex virus hepatitis in an immunocompetent patient	Clin Exp Dermatol	Epub ahead of print	doi: 10.1111/ced.13405	2018
Stalder JF, Futamura M, Barbarot S. et al	Topical corticosteroid phobia in atopic dermatitis: International feasibility study of the TOPICOP score.	Allergy	72	1713-9	2017
Kikkawa T, Yorifuji T, Fujii Y, Yashiro M, Okada A, Ikeda M, Doi H, Tsukahara H.	Birth Order and Pediatric Allergic Disease: A Nationwide Longitudinal Survey.	Clin Exp Allergy	48	577-585	2018
Nagao M, Ikeda M, Fukuda N, Habukawa C, Kitamura T, Katsunuma T, Fujisawa T; LePAT.	Early control treatment with montelukast in preschool children with asthma: A randomized controlled trial.	Allergol Int	67	72-78	2018
Araki T, Ikeda M, Kitada K, Kodera A, Fujiwara M, Muraoka M, Abe Y, Tsukahara H.	Analysis of factors associated with development of Bacille Calmette–Guerin inoculation site change in Kawasaki disease.	J Int Med Res	46	1640-1648	2018
Nagao M, Inagaki S, Kawano T, Azuma Y, Nomura N, Noguchi Y, Ohta S, Kawaguchi A, Odajima H, Ohya Y, Fujisawa T, Izuhara K.	SCCA2 is a reliable biomarker for evaluating pediatric atopic dermatitis.	J Allergy Clin Immunol	141	1934-1936 e11	2018

・ 平成 29 年度構成員名簿

・ 班員構成

区分	氏名	所属	職名
研究代表者	加藤則人	京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学	教授
研究分担者	大矢幸弘	国立成育医療研究センターアレルギー科	医長
	片山一郎	大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学	教授
	下条直樹	千葉大学大学院医学研究院小児病態学	教授
	秀 道広	広島大学大学院医歯薬保健学研究科皮膚科学	教授
	池田政憲	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科小児急性疾患学講座	教授
	藤澤隆夫	国立病院機構三重病院アレルギーセンター	病院長
	佐伯秀久	日本医科大学大学院医学研究科皮膚粘膜病態学	教授
	海老原全	慶應義塾大学医学部皮膚科学	准教授
	二村昌樹	国立病院名古屋医療センター小児科	医長
研究協力者	長尾みづほ	国立病院機構三重病院臨床研究部アレルギー疾患治療開発研究室	室長
	山本貴和子	国立成育医療研究センターアレルギー科	医員
	室田浩之	大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学皮膚科学	准教授
	藤田雄治	千葉大学医学部附属病院小児科	医員
	田中暁生	広島大学大学院医歯薬保健学研究科皮膚科学	准教授
	益田浩司	京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学	准教授
事務局	吉村菜穂・海老瀬文代	京都府立医科大学大学院医学研究科皮膚科学 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465 TEL/FAX: 075-251-5586 E-mail: hisho@koto.kpu-m.ac.jp	秘書
経理事務連絡担当責任者	土方美幸	京都府公立大学法人京都府立医科大学 事務局 経理課調達担当 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町465 Tel: 075-251-5221 Fax: 075-251-5205 E-Mail: kikaku01@koto.kpu-m.ac.jp	